

# 日本地衣学会

# No.135

# ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次	会務報告	503
	第40回青空地衣教室報告／川上 紳一	503
	第40回青空地衣教室に参加して／三井 崇史	506
	ニュースレター編集委員交代のお知らせ／中嶋 裕之・坂東 誠・川上 寛子・原田 浩	506

## 会務報告 *Report of the JSL Activities*

### 第40回青空地衣教室報告

*Report of the 40th Outdoor School on Lichens by JSL at Gifu, July 2016 / by KAWAKAMI Shinichi*

>>>>> 川上 紳一：第15回大会実行委員長

日本地衣学会第15回大会の関連イベントとして、以下のとおり青空地衣教室を開催したので報告します。

れる主な地衣類を確認した。ムカデゴケ科クロボシゴケ属、ウメノキゴケ科キクバゴケ属のほか、タテゴケ、

\* \* \*

日時 2016年7月18日(月、祝)  
 場所 ①川辺ダム下(岐阜県加茂郡川辺町)  
 ②飛水峡(岐阜県加茂郡七宗町)  
 参加者 18名

\* \* \*

18日午前8時に岐阜大学バス停に集合し、4台の車に分かれて、岐阜県加茂郡川辺町の飛騨川の川辺ダム下の右岸に露出する蜂屋層の露頭に向かった。9時30分から岩石上生の地衣類の観察を行った。飛騨川に近いところにある大きな岩(図1)で、蜂屋層にみら



図1. 川辺ダム下での観察。川上が解説。



図2. 川辺ダム下。



図3. 川辺ダム下。思い思いに写真撮影。

クロタテゴケ、ヒメカイガラゴケ、チチレクゴケなどを確認した。この場所で、*Synalissa* sp. や *Thyrea* sp. の生育状況を確認し、研究用の標本を採取した。この日は快晴だったため、地衣類の種類によるわずかな色の変化がわかりやすく、やや赤みを帯びた *Synalissa* sp. は多くの地衣体を見つけたことができた。

その後、下流へ向かって移動しつつ、イワアバタゴケ、*Aspicilia* sp., *Endocarpon* sp. などを確認し、標本を採取した。午前 11 時 30 分ごろに観察を終了し、七宗町日本最古の石博物館周辺で昼食をとった。

午後 1 時に日本最古の石博物館を出発し、第 2 の観察地点である飛水峡ロックガーデンに向かった。移動時間は 10 分で、公園の駐車場から飛騨川へ向かうと、層状チャートの露頭が広がっている。河川侵食で多数の甌穴ができており、これらが天然記念物に指定されている。また、甌穴群からなる景観も見事であり、飛騨木曾川国定公園に指定されている。ここでは、層状チャートに生育するオワリウメノキゴケ、ハマキクバゴケを確認した。さらに、飛騨川に近い南東部にみられるアツミダイダイゴケ(図 5)の生育ポイントに向かった。ここでは、標本採取は禁止されており、写真撮影を行った。その後、植生のある場所で、オワリウメノキゴケ、ハナゴケを確認した。甌穴の部分ではオオミズゴケもみられた。午後 2 時ごろに、現地で集合写真を撮り(図 4)、解散した。

今回の観察会は第 15 回大会の直後に実施されたものであるが、梅雨末期の開催であり、天候や大雨による増水が心配された。しかし、好天に恵まれ、予定していたコースを巡り、主な地衣類を観察することができた。川辺ダム下流の蜂屋層の露頭では、狭いエリアに多様な岩石上生地衣類が分布していること、道路から近くアクセスが容易であることから、岐阜県における地衣類観察会のフィールドとして、もっとも適して

いると考えられる。今回の青空地衣教室で、学会会員の皆様に、岐阜県の地衣類を代表する岩石上生地衣類

を十分観察していただくことができたことは、今回の観察会を企画した一人として、大きな喜びである。



図4. 飛水峡にて記念撮影。



図5. チャート露頭上のアツミダイダイゴケ群落。ここに寝そべりたいと言っていた吉野花奈美氏と。

\*\*\*\*\*

## 第40回青空地衣教室に参加して

*My Impression of the 40th Outdoor School on Lichens by JSL at Gifu, July 2016 / by MITSUI Takashi*

>>>> 三井 崇史：京都大学農学研究所修士課程1年

大学に入ってから趣味で地衣類を観察していましたが、痾状地衣をしっかり探したことは少なかったと思います。痾状地衣は形が平面的で目立たず、基物に溶け込むような色合いのものが多いため、今まで相当数を見落としてきたかもしれません。今回は、普段の野外散策以上に周りをよく見て歩きました。研究員の方や学生さんに尋ねながら様々な地衣類に出会うと、新たに気付くこともあり、大変刺激を受けます。特に飛水峡ロックガーデンでは、チャートとアツミダイダイゴケのコントラストが鮮やかに映えていたのが印象に残りました。地衣類には、景観の一部としての価値もあるのではないかと思います。

また、岐阜県の地質についてお話をうかがったうえで地衣類を見てみると、基物の岩石によって発生する地衣類も異なるということがよく分かりました。地衣類に限った事ではないと思いますが、観察地の地質について調べておけば、地質ごとに多様な風景に出会うことができ、野外観察の楽しみが増えるのだと実感しました。

今回は天候にも恵まれ、景観と地衣類の両方を堪能することができました。地衣類の研究に携わる方々からお話をうかがうこともでき、大変有意義な観察会だったと思います。

\*\*\*\*\*

## ニュースレター編集委員交代のお知らせ

*New editors of the Newsletter / by NAKASHIMA Hiroyuki, BANDO Makoto, KAWAKAMI Hiroko & HARADA Hiroshi*

本誌の編集は、木下薫（明治薬科大学）さんを委員長として、小峰正史（秋田県立大学）、原田浩（千葉県立中央博物館）の3名で編集にあたってきましたが、前133号をもって交代しました。お疲れ様でした。

今号からは、中嶋裕之（久留米高専）を委員長として、坂東誠（カカシ食研）、川上寛子（秋田県立大学）、原田浩（千葉県立中央博物館）の新体制で編集にあたります。皆様、よろしくお願いたします。

中嶋 裕之・坂東 誠・川上 寛子・原田 浩：ニュースレター編集委員会

## ●複製される方へ

本誌に掲載された著作物を複製したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌102号378ページに。

## ●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 102, p. 378 of this publication.

● *Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*, no. 135, pp. 503-506: eds. Nakashima H., Bando M., Kawakami H. & Harada H., published by *the Japanese Society for Lichenology*, 23 Sept. 2016.

---

日本地衣学会ニュースレター 135号

発行日：2016年9月23日

編集：中嶋 裕之・坂東 誠・川上 寛子・原田 浩

発行者・発行所：日本地衣学会

〒658-8588 神戸市東灘区本山北町4-19-1

神戸薬科大学 薬化学研究室

---

---

©2016 日本地衣学会 (© 2016 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複写等は固くお断りいたします。